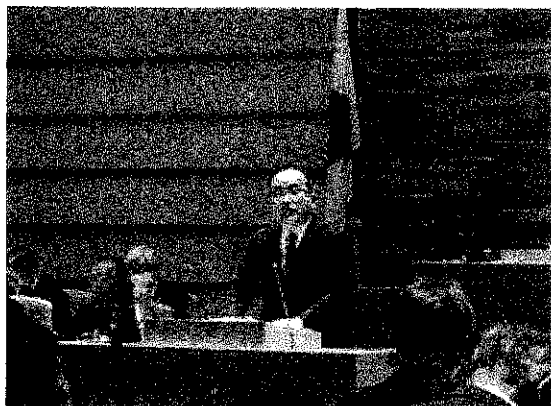


市民とともに行政をすすめる態度ではない

—民主主義がわかっていない市長・教育長の答弁—



日本共産党
市議会議員団
週刊議会報告
【発行】
岡野長寿
(0845-22-2596)
三浦とおる
(0848-48-5044)



総体質問をする岡野長寿市長

2月28日(金曜) 岡野長寿市長が共産党市議団を代表して総体質問を行いました。その様子をお知らせします。

「大火災の被災者支援を」 「コロナ対策一斉休校、市はどう対応」

岡野長寿市長は、前夜に発生した因島土生町の火災について万全の被災者支援を行うこと、また、同日発表されたコロナ対策としての国の一斉休校要請に対し尾道市はどう対応するのか質しました。事前通告がないと

教育問題： 中学校給食の進捗、 拙速な「3校統合提案」について反省はないのか

同市議は、中学校給食の遅れについて、また土堂・長江・久保小統合問題の混乱について、まずは反省の言葉があつてしかるべきではないかと質しましたが、答弁はこれまでの経過措置

の繰り返して、市民の意見や要望に従って行政を執行するという姿勢が見られませんでした。中学校給食については「自校方式を基本とし、共同調理場を含めて全中学校での給食の早期実施を求める」請願が可決されて6年が経過し、市教委がデリバリー給食に固執している間に、三原市や福山市に追い越されてしまいました。

また、3小統合問題では、未だに統合案を白紙撤回したとは言いません。あくまで統合を前提とするならば、保護者の理解は得られず、現在提案の仮設校舎は予定の4年間どころか、ずっと仮設のまま子ども達が過ごさなければならなくなるおそれがあります。土堂小の現地での耐震工事を急ぐべきです

家庭保育園への 補助金増額を

2019

12月議会

このコーナーでは昨年度の共産党市議団の論戦を議事録から紹介しています。

三浦議員 家庭保育園(無認可保育園)に対する補助金がこの10年間で上がっていないということですが、この家庭保育園は他の市町村の無認可保育園と違って、日々の提出書類等は認可保育園と同じ保育指針に基づいた書類を提出するようになっていると思いますが、間違いありません。

子育て支援課長 本市では認可保育園も家庭保育園も同様の様式の指導案で市の指導員が巡回して指導を実施していますので、内容について相違はありません。

家庭保育園では3分の1が保育士または看護師の資格を有すればいいこと、保育室の面積について緩和した条件になっています。

三浦議員 家庭保育園への委託料と認可保育園への補助金の額は違いますか。

子育て支援課長 0歳児で24万3千円と2万5千円。1、2歳児で16万6千円と7千5百円。3歳児は約10万2千円と2千250円。4歳児、5歳児で9万4千円と1千500円となっています。

三浦議員 現在の補助金では、家庭保育園は経営が厳しくなってくると思います。しっかりと家庭保育園を支えていけるよう市としての努力をお願いします。

子育て支援の拡充の提案に対し 開き直りの答弁連発

同市議は、市議会の世論となつている少子化対策の強化について具体的提案しました。国に要望するだけでなく、国がやらないからこそ自治体が行うべきであること、その実践例も多くあることを指摘しましたが、市

は姿勢を改めようとしませんでした。

子ども医療費助成を18歳(高校生)までに拡充すること、給食の無償化については、いずれも「多額の財政負担を伴うから」という理由で、また、国民健康保険制度に

しかかない子どもの保険料負担分の免除については、県単位化されていることを理由に「困難」と答弁しました。

尾道市がリードして広島県全体で実現するようにしたら良いだけです。

不公平を放置しても平気なの？ 「これも開き直り」?

次に、同市議は、家庭保育園の補助金が、同じ民間の保育園等への委託金と比べて著しく低いことから、その不公平制を正すために補助金を増額すべきことを要求しました。また島しょ部の障が

い者にも本土と同じく無料バス定期券をつくるべきことを要求しましたが、いずれも「検討中」との答弁。

しまなみ海道通行料の市独自の支援は、合計380万円とお粗末な実態が明らかに。その額は「活力ある産業が育つまち」の予算の何パーセント分かつて答えられないのか、「そのような集計はしていないので答えない」と答弁しました。